

伊予富士



寒風山. 笹ヶ峰方面

桑瀬峠 1451m

旧寒風山トンネル
昭和39年完工。
944m

桑瀬

その昔桑瀬啓助といふ落人が開いた工地といわれている。明治33年、土佐山津波により押し流され、約半数の人たちが故郷を捨てて九州の炭坑に初住したという記録が残っている。

寒風茶屋

登山口

岳人てにぞわう



つら折の道 峠へ25分の標識

ミカドヤハバチ 石と木の根の階段

えぐられた大崩落 痛々しい

桑瀬峠

桑瀬峠は西のシラツ峠と並んで、その昔より本川郷から伊予西条に通じる往還道であり、別子銅山に製錬用の炭を運ぶ産業道でもあった。土佐と伊予を行き来することから桑瀬には「境目新」が設置されていた。桑瀬の商圏は西条を中心として発達し、塩や魚も伊予から持ってきた。桑瀬からはカジ、シツマ、養などが送られた。伊予の品物は工佐で買うより安く、物資の交流が峠を越して行なわれた。製炭は別子銅山との関係が深く盛んに行なわれ、峠付近には炭の集積中継所である「中宿」があった。



がっさいいっすの土不ぬの上から降りたのはあかこしい

春にはケボツツジが見える

桑瀬峠 1451m

まよわさる

樹林帯

このくぼみがいい感じだ

樹林帯が広がった開放感

小麦畑から工小屋まで総延長30キロの「国境歩道」が「人と森林のふれあいの場」として昭和初期に高知営林局によって開設された。

緑色の稜線

東側は桑瀬峠をほとんど寒風山や笹ヶ峰が印象的に目立つ。瀬戸内側と太平洋側は季節も天気も分かれる。

特徴ある北尾根の岩峰群の連なりが伊予富士を遠くからでも目立たせている。



三百名山

三角三角点

ササがササツラと音を立てて鳴る

ふることの富士

富士は全国の各地にあり、それぞれの地域に「郷土富士」がある。日本一秀麗な富士山に山容が似ていたり、歴史的に何らかの関係があったり、その土地を代表する山に「富士」を付している「ふること富士」とも呼ばれる。

北海道から沖縄、さらには外国にも広く「富士」を冠する山が多く存在する。四国も伊予富士をはじめ讃岐富士、阿波富士、土佐富士(物部白根山は並生富士と呼ばれる)などたくさんあり、地元の人々から親しまれている。

土予国境稜線。点在する1700m以上の山が連なり、快適な縦走路が続く。

伊予富士

急登

UFOライン

町道瓶ヶ森線。「雄大な峰が続く道」ということから「雄山峰ライン」と呼ばれてきたが登山者がここから撮った写真にUFOが写っており「UFOライン」が定着する。旧寒風山トンネル入口から石鏡山に向けて延びる約27kmの絶景ドライブコース。バイクや自転車も多く、老若男女に愛されている。11月～4月中旬 冬期通行止め。

山の天気は一日七度変わるという。深い谷が朝霧、雨、霧、曇り、風と雲。気温も上下する。天気のよい日も油断なし。

寒風山登山口から伊予富士へ登り、伊予富士登山口へ下り、UFOラインを歩いて寒風山登山口へ戻ると9km、約2時間かかる。景色が美しいからこれば良し。

いっだってどこにいたって
はてしない空を
風は歌ってゆくよ
今だけの歌をよ
道の向こうへ出かけよう
今が通り過ぎてゆく前に♪
「愛と風のように」
ケンとメリーのスカイライン song
UFOラインもスカイラインだ。

朝がきてら出かけよう
山の道具をバックにめぐる

今が通り過ぎてしまふ前に

長い泳いもある

伊予富士は独立山峰でもなり、ゴツゴツして富士山には似ていないけれど、西条市と隣の町の長沢山から富士山を見えるポイントがあるといわれる。(高知県の山より)



今回は自転車
で歩いてラクチン♪



麓へ続く稜線

登山口

9km表示

南側は高知の山々が一望

UFOラインから伊予富士と見とける。雲が刻々と姿を変えて流れ、いく。雲を見ればおもしろい。2022.11.4

東黒森分岐
竹の斜面



NO.130
2023.2.3